

第1回日本語支援研修会 記録

記録者 飯久保 博幸

演題：『最近の日本語教育事情“「生活者としての外国人」に対する日本語教育のための標準的なカリキュラム案”（文化庁）を中心に』

講師 吉田聖子先生

* この記録では、研修会当日配られた資料との重複を避けました。資料とともにこの記録を見ていただきたいです。

きょうの内容	
1 「自分を知る」	あなたはどのタイプ？
2 「最近の日本語教育」を知る。	
3 「今、なぜ対話中心の活動か」を知る。	
4 きょうのまとめ	今、気になっていること など

あなたはどのタイプ？

山梨のイメージは？と聞かれると 武田信玄 桃

自分の持ち味を日本語ボランティアに生かそう—あなたはどのタイプ（行動派、ムードメーカー、気配り上手、知的探求者）—チャートでチェックして自分の特性を知った。タイプごとに集まって自己紹介をした。

地域日本語教室が日本語ボランティアの活動の場であり、生活者としての外国人と生活者としての日本人が対話する協働の場でもある。

日本語教育の最新状況

- 新しい日本語能力試験—3級とN4の違い（詳しくは資料参照、N4は「できる」）
- JF日本語教育スタンダード—5つの柱（理解（聞く）、理解（読む）、表現（話す）、表現（書く）、やりとり（会話））の内容
- 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標—日本語を使って～できるようにすること—日本語ボランティアの役割は橋わたしをすることである。
- 標準的カリキュラム案活用のキーワード
 - ・地域学習者に応じた活動内容の選択と工夫
 - ・専門家、地域住民との協働
 - ・行動、体験中心の教室活動
 - ・対話による相互理解の促進

日本語ボランティアがいるからできる対話中心の活動

- 自分と学習者についてワークシートに記入してから2、3人で話し合う。
自分—私はこんな人です。（資格、趣味特技など）
学習者について知っていること—家族（構成）、仕事（内容）など
学習者は何のために学習したいか—目標（できるようになりたいこと）は何か。（例：日本人とうまく話したい。日本人が使っている言葉を知りたい。）
目標達成のために必要なことは何か。（例：日常使っていない言葉を新聞やTVで知る。）
- だれでも聞けるようになるという言葉がみかけてくる。
- 地域で自立することは生活に不自由しないように生きていけること。

「こちらに来なさい」

○ひと（魚屋さん、歯医者、殿様、警官、おかあさん、ウエイトレス、おじいさん）によって言い方が違う。—実際にその人になったつもりで言う。

出てきた言葉から—「おい」は最高に削減されている言葉で、むだがない。
密な相手とは通じる。声の強さ、高低、抑揚によって気持ちもちが違う（機嫌がわかる）
「すみません」は謝る時や頼む時など意味が多様。

○同じひとでも、制服を着た時と着ない時（工作中かどうか）、よびかける相手が家族か家族でないかによっても言い方が違う。

○相手が変われば言い方も違う。

言葉を選ぶときに気にしたことは何ですか。

- 話す対象がだれか。（相手の職業、年齢など）
- その場の状況、健康状態（健康に配慮しなければならないか）がどうか。
- 世代、時代の違い。

「辞書を貸してください」

○いろいろな表現（言い方）を列挙してみる。
〈ふつうに言う時と丁寧に言う時、誰との場合でどういう時に使うか〉

○その表現を分類すると、次のことがわかる。
「かす」という言葉は「貸す」「借りる」「方言などその他」の表現に使える。
記号（? !）がついているものとついていないものがある。
語尾あがり 語尾さがりによっても表現に違いがある。

○相手との関係、欲求の強さ、命令と依頼など状況によっていろいろな表現がある。

○一般のルールも大事で、生きた日本語を知ってほしい。

○同じ言葉でも、聞き手（特に外国人）によっては違う言葉に聞こえる。
（抑揚、言い方の強さ、息継ぎの仕方などの受け取り方）

○実生活で伝わらなかつたり、使ってみて失敗を繰り返したりすると次にならなくなる。

「対話中心の活動」のポイント—本物ネタと生きた日本語ネタ、居心地のいい場所づくり、コミュニケーション力

○居心地のよさは共通の話題がある人と話せるようになること。

○よいボランティアは聞き上手、わかりやすい話し手である。
（笑顔、相づちなどでの対応）

“対話中心の活動 —ネタ探し—”

トピック 1 色：一般的には、「これ、何色？」「何色が好き？」「信号の色は？」「信号で止まる時はどんな色？」であるが、自分の物にひきつけて、物と名前を教える。
（例：「赤いものはあなたの持っているもので何？」）

トピック 2 数字：一般的には、お金、時計、カレンダー、電話、年齢、生年月日などで教えるが、個人にかかわることは印象に残る。(例：レシート、チラシなど)

○レシートにはいろいろな情報が入っている。(値段、単価、個数、合計、おつり、日付、時刻、住所、電話番号、ポイント数など)何を、いつ、どこで、いくらだったか、わかる。

○体系的に教える素材と生のものを使って生活と結びつける素材がある。

○使えるチラシ — コーヒー豆を売ってくれる店で、「コスタリカ、いくら?」「ブラジル、いくら?」—自分が買いたいものに結びつけると、理解しやすく、ひらがなもカタカナも書きたくなる。

国際化の政策が変わってきた—国際交流(国と国)から多文化共生へ(同じ地域でいっしょに生活する)—私たちの側がわかりやすいことばで話し、聞き上手になることが大事である。

〈 質問 〉

① Q 入門レベルの人にことばで伝えるのは難しいが、どんな工夫があるか?

A 自分にひきよせて、具体物から出発してほしい。目標は何? どのようなことが必要か?
例えば、晩ご飯のための買い物をする。カレーライスを作る。目標はカレーライス。材料を買うことができる。そのために必要なことは何を、どこで買うか。絵や写真を見て、何が出来るか。いっしょに買い物に行く。何にひっかかるのか、買いたいものが見つからないのか、文字が読めないのか、聞き取ることが出来ないのか—必要なサポートをする。

② Q ひらがなの習得で具体的な方法は?

A 意味のあるひらがなを書くこと。(レシートのひらがな—ひらがなを書いてみる、50音表に○印をつけるなど)
(コーヒー屋さんのチラシ—ひらがなを書くことを少しずつ増やしていく。)(アンケート用紙へのひらがなでの記入)

③ Q 試験の問題の解き方と日常の会話とは並行して学習できるか?

A できない。合格のためのテクニックと日本語力をつけることを特別に集中してやらないと、試験には合格できない。が、聴解ができない時には、生の日本語(駅や閉店のアナウンス)を聴く場面とテキストを結びつけて、文型やことばを理解する方法もある。

④ Q 幼稚園でのママ友会でどんなふうにしたらよいか?

A その地域で声かけられる、ママ友をつくること。
「かわいいね」「すてきですね」「その靴——(持ち物をほめる)」
といったことばを心をこめて話す。

*** 日本語ボランティアは日本語ボランティアができるサポートとほかの人(しごと、領域の人)のサポートをつなぐ。**